



2020.5.28



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部： <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

==== 目次 =====

1■日本で生きる：広島県福山市から■

コロナ渦中での地域日本語教室のオンライン取り組み事例

「未来に向けて 今 できることをすることから」

NGO ふくやま日本語教室「ともだちひろば」

代表 宮野宏子

2■機関誌『AJALT』43 号のご紹介■

=====

1■日本で生きる：広島県福山市から■

コロナ渦中での地域日本語教室のオンライン取り組み事例

「ともだちひろば」は、18 年前から広島県の JR 福山駅近くで活動している市民グループの日本語教室です。対面式の活動ができなくなってから、早い段階でオンラインのビデオ会議サービスを使った「おしゃべり会」を続けておられる代表の宮野宏子さんから、その経緯と具体例を紹介していただきます。

.....

未来に向けて 今 できることをすることから

NGO ふくやま日本語教室「ともだちひろば」
代表 宮野宏子

◆いつでもつながることができる場を

皆様、こんにちは。長期化が見込まれたコロナ禍で、すでに工夫した取り組みを展開している団体もある中、私たちの拙いチャレンジをお伝えする機会をいただき、ありがとうございます。

私たちの活動は、これまで週1回開催の日本語等の学習や体験が主でボランティアは15人、学習者は40人から60人です。

多くの教室と同様に、今年1月時点では対岸の火事のように思っていたCOVID-19により、私たちの教室も3月2日を最後に、従前同様の活動を継続できなくなりました。母国ではない場所に暮らす学習者のほうがこの問題には敏感で、教室最終日には学習者の参加は3人でした。

私たちの教室は「多文化共生のまちづくり」を活動理念に掲げています。facebookグループ(SNS)も持っていますが、対面での活動ができなくなった今「仲間と安心してつながることができる場を作る」活動として何ができるかを2月下旬から模索していました。

3月に入り、土井佳彦さんが「緊急企画：多文化共生にかかわるチャリティー講座」をオンラインのビデオ会議サービスを利用して開催なさることを知り、参加しました。講座の内容はもとより、このビデオ会議機能が日本語教室の今後の活動に使えると分かったことがとても大きな収穫でした。

4月3日には、スペインに移住していた知人が主催する「オンライン日本語茶話会」に参加。この知人は、かつての「ともだちひろば」仲間です。スペインでは3月末の時点で外出規制・自粛が長期化しており、この知人のオンライン活動は、私にとって先進事例となりました。

◆facebook(SNS)でオンライン「おしゃべり会」参加を呼びかける

スペイン発「オンライン日本語茶話会」の翌4月4日には、「ともだちひろば」のfacebook（SNS）グループでオンライン「おしゃべり会」への参加を呼びかけました。

まず、「ホスト」と呼ばれる主催者がオンライン上に「ミーティングルーム」を開設します。「ミーティングルーム」には、URLやID・パスワードが自動的に作成され、これらを知っている人がオンライン上の「ミーティングルーム」に参加できます。

午後1時過ぎにfacebook(SNS)グループでURLやID・パスワードを「ともだちひろば」の仲間に知らせたところ、その日の夜8時には、私の他にボランティア2人と学習者2人が参加しました。この日の参加者全員がビデオ会議機能を1度は使ったことがある人でした。参加者を増やすために、この機能を知るための勉強会が必要だと感じました。

とりわけこの時期には、オンライン会議のセキュリティや脆弱性などのニュースが出回っており、それを理由に参加したくないという人や、操作がわからないという人などもいて、参加を強く勧めることは現在もしていません。

使い始めて2ヶ月弱、これまでの勉強会・おしゃべり会に1度でも参加した人は27人です。

また、「おしゃべり会」は、従前の活動日時に合わせて時間設定し、定期的で開催するよう工夫しています。

◆4月半ばから「聞き取り活動」も始めました

4月の中旬からは「おしゃべり会」と並行して「聞き取り活動」も始めました。ボランティアがSNS（メッセージャー、LINEなど）を使って学習者に連絡をし、状況を聞いています。聞き取りシートを作って、ボランティアの有志が個別に連絡を取っています。私自身も何人かの学習者と話をする中で「おしゃべり会に参加したいけど、どうやったらいいかわからない」人がいることに気づきました。IT機器に親しんでいる学習者にとって、キーワードが理解できればビデオ会議アプリのインストールは容易だったようです。「これ

で参加できる」と喜んでいました。また、個別に話すことで不安な気持ちに寄り添うことができ、この活動の大切さに改めて気づかせてもらいました。

◆ボランティアメンバーのための使い方勉強会

一方で、ボランティアを対象に使い方勉強会を数回開催しました。「勉強会を開きましょう」とボランティアの facebook(SNS)で呼びかけたところ、実際に会場に人が集まるのだと思ってしまい、開催時間にオンラインのミーティングルームではなく、いつもの会場に集合してしまった方もいます。急いで電話で連絡を取った結果、60 歳代のその方は、施設前に停めた車中でスマホで勉強会に途中から参加し、アプリのインストールから操作方法まで一緒に学習できました。

ボランティア間では、会の理念をことあるごとに確認しあい、「おしゃべり会」「聞き取り活動」など、「できる人ができること」を大事に活動しています。「おしゃべり会」終了後には、どんな「おしゃべり会」だったかを発信し、疎外感を軽減するよう心がけています。これらの活動が絡み合って、仲間がつながり続けていると感じています。

「おしゃべり会」の主催者としては、ビデオ会議の機能を少し勉強する必要がありますが、これまでのコーディネート役と同じ役割ととらえて、楽しく運営しています。また、アプリの機能に関する疑問点などの多くはネットで公開されているので、毎回は勉強です。

◆未来に向けて、今できることを

「おしゃべり会」の運営方法としては、その日の参加者が満足できるよう配慮することが大切です。ばらばらと参加する人たちへ声掛けや話題提供、表情をみながら話を振るなど、これまでの活動と同じと考えていいと思います。使っているアプリは「分科会」のような小部屋がつくれますので、あらかじめ集合したら、頃合いを見て少人数のグループに分かれます。小部屋で話していることは部屋の外の人には聞こえないので、気心が知れたグループを組むと互いにストレスが少ないようです。顔を見ながら話す・聞くだけでなく、視覚資料を画面で一緒に見ることも出来るので、見る・読むなどもアイデア次第です。

活動案としては、テーマを決めて話をする活動がとても活発でした。例えば、「最近買ったもの」を探してカメラの前に持ち寄って順番に説明した回では、質問が飛び交いとても楽しい時間になりました。

コロナ禍が収束したのちには、全く違う未来が待っていると思います。世界の人々がどのように移動し、どのような毎日になるのか、そして日本語学習者を取り巻く環境がどうなっているのかなど、予測できない未来に挑んでいかなければならないこの時こそ、できることをできることから始めてみてはどうでしょうか。

最後になりましたが、みなさんが笑顔で集える日が1日もはやく来ますように。

※編集部より

NGO ふくやま日本語教室「ともだちひろば」については下記 URL をご参照ください。

<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/dantai/touroku-dantai/63248.html>
